経営発達支援計画
令和5年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査
レポート（Report）

～京丹後市版～

（令和5年1月～令和5年3月）

京丹後市商工会

地域経済動向調査レポート －京丹後市版－

～ コロナ流行も落ち着き、人流の回復から明るい兆し見えるも、採算の低調が続く市内事業者 ～

令和5年5月1日

＜調 査 概 要＞

【調査対象】地域内の小規模事業者等100件

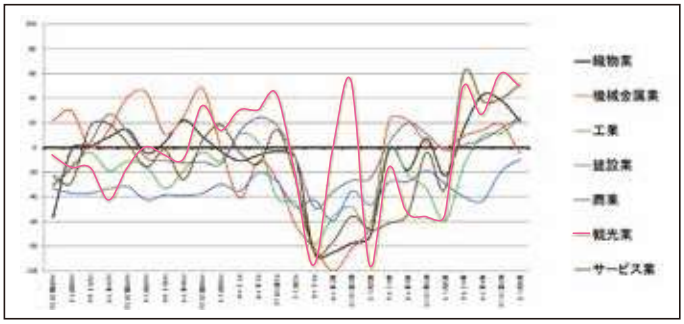
【調査期間】2023年1月～ 3月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングにおける調査票への選択記入式

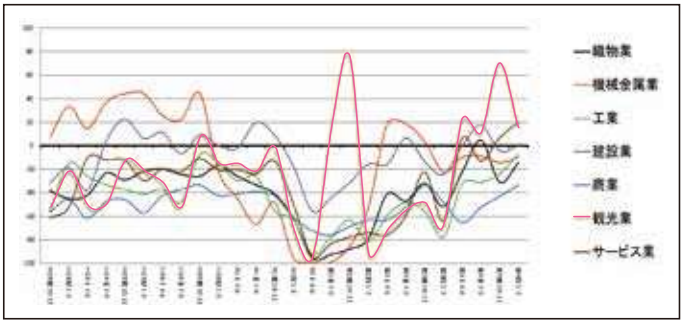
＜産業全体＞コロナ流行も落ち着き、人流の回復から明るい兆し見えるも、採算の低調が続く市内事業者

1月～3月の市内小規模事業者経済動向調査は、コロナウイルス感染症の流行も落ち着きがみられ、特に観光業の売上DIについては、国内外からの観光客等も増え始めたことに、旅行支援等の効果が重なって、大きな回復傾向が見られた。また、今まで制限の多かった外食なども需要が高まっている。しかし、前四半期との比較では、売上DIは横ばいで好調をキープし、資金繰りDIと業況DIは小幅改善、採算DIは悪化となった。総体的に、全業種で依然として物価高騰等からのコスト圧迫の影響は続き、価格転嫁が追いつかず、利益確保に苦慮していることがうかがえる。

売上DIの推移



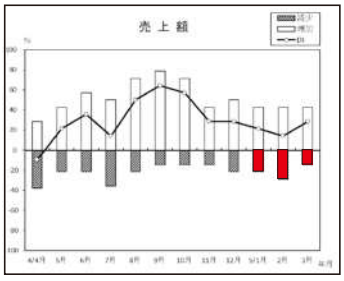
業況DIの推移

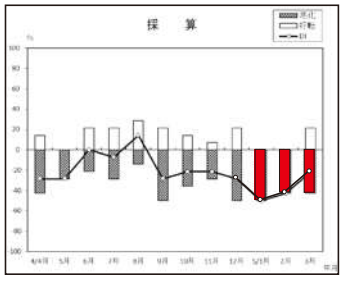


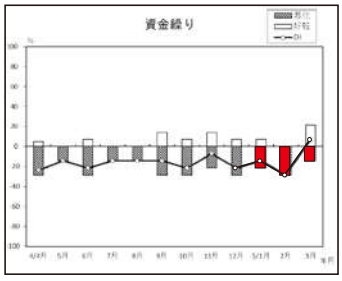
※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

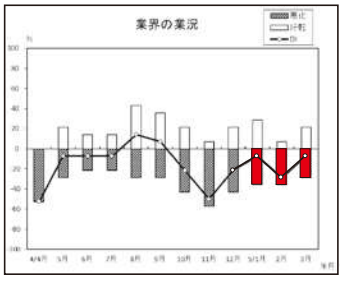
織　物　業　需要回復への見込みから受注が好調も、価格転嫁が追いつかない織物業

織物業の1月～ 3月は、全ての項目DIで横ばい若しくは回復傾向を示した。しかし、前四半期との比較では、売上DIと採算DIが10ポイント以上悪化、資金繰りDIは小幅改善、業況DIは10ポイント以上改善した。経営支援員からは、価格転嫁が順調にできているか、否かで業績の明暗が分かれている報告が目立った。また、インボイス制度の開始も重なって、先行き不安感が増しているとの報告があった。



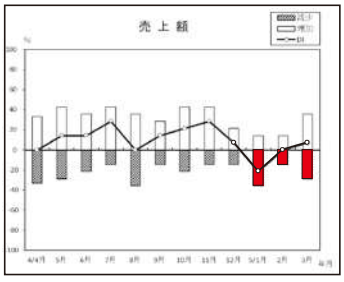


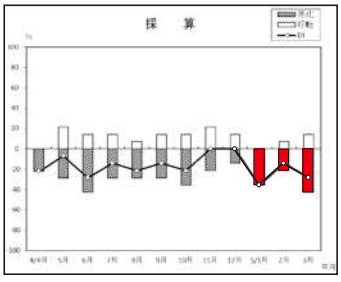


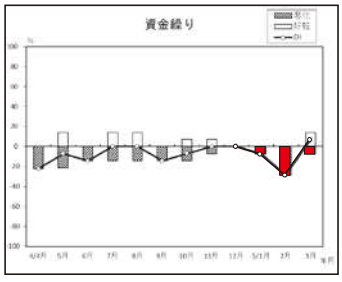


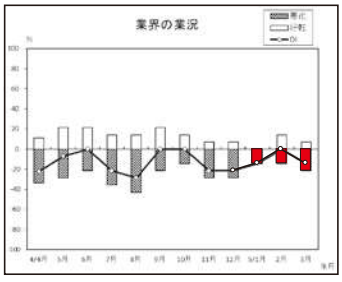
機械金属業　受注は比較的安定も、人件費増による更なるコスト高が懸念され、採算悪化の機械金属業

機械金属業の1月～ 3月は、資金繰りDIが大きく改善したものの、他の項目DIは僅かな改善若しくは横ばいであった。しかし、前四半期との比較では、業況DI以外の項目DIが7～ 23ポイント悪化した。経営支援員からは、受注に波が見られるとともに製造コスト高に対し価格転嫁が困難な状況も見受けられる等、採算悪化が不安視されるとの報告があった。あわせて、依然として自動車関連が低調との報告もあった。



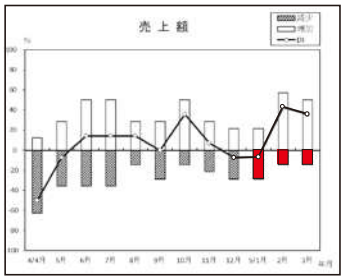


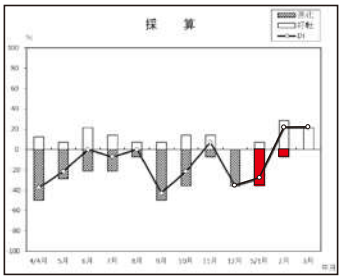


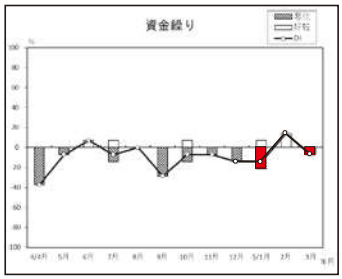


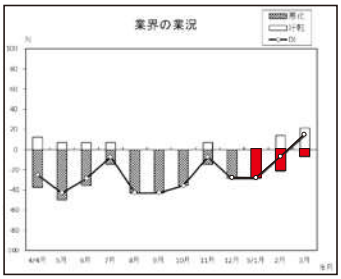
工　　業　物流や材料不足等が改善され回復傾向見えるも、採算DIは低調に推移する工業

工業の1月～3月は全ての項目DIで改善を示した。前四半期との比較でも同様に全ての項目DIで改善し、特に売上DI、採算DI、業況DIにおいて、10ポイント以上と大きな改善幅を示したが、採算DIについては、低水準で推移している。経営支援員からは、人流もコロナ前に戻りつつあるが、物価高騰による消費者の節約志向の影響や、人手不足も含めた今後の見通しへの不安感が増している報告が目立った。



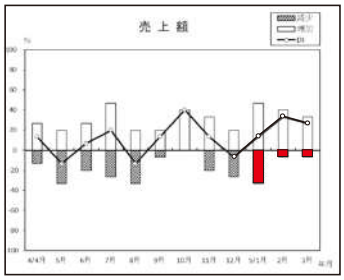


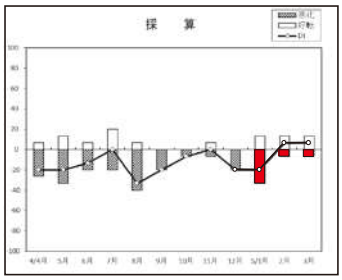


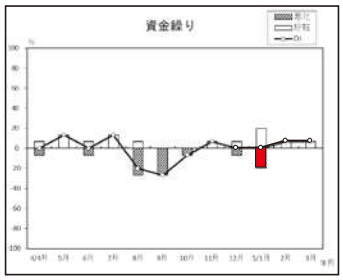


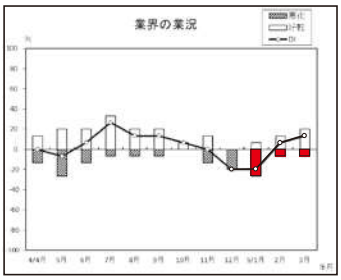
建　設　業　民需が好調をキープし明るい兆し見えるも、人手不足が顕著化する建設業

建設業の1月～3月は、全ての項目DIで改善を示し、プラス水準で推移している。前四半期との比較でも全ての項目DIで改善を示し、改善幅は5～9ポイントであった。経営支援員からは、業界全体として人件費の底上げを含めたコストの高騰が、採算性を悪化させているとともに、人手不足を加速化させている。また、それらによって工期延長となるケースも出てきており、結果として売上減少を招いているとの報告もあった。



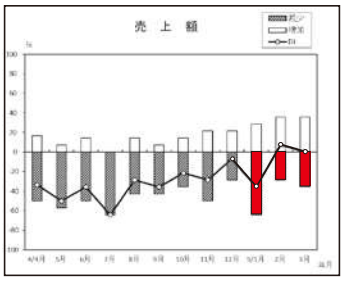


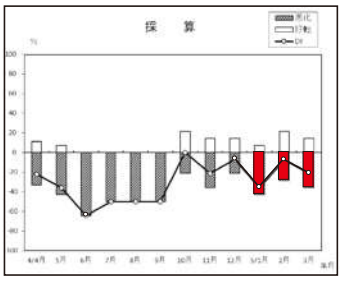


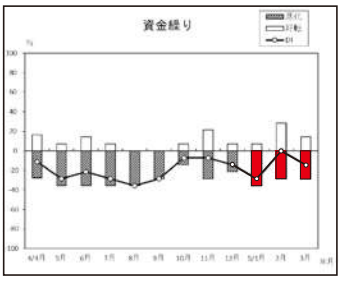


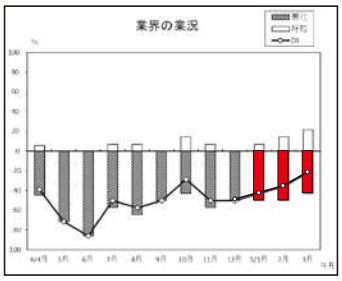
商　　業　食品を中心に値上げのピークを迎え、生活への影響がますます大きくなる商業

商業の1月～3月は、全ての項目DIで概ね横ばいを示した。前四半期との比較では、売上DI・業況DIがおよ10ポイント改善した一方で、採算DI・資金繰りDIがともに悪化を示した。経営支援員からは、3月に入り、地域デジタルポイントによる駆け込み需要は認められたものの、生活必需品においては商品価格高騰の影響で代替品へのシフトが顕著となり、消費者ニーズの先読みに苦慮しているとの報告があった。



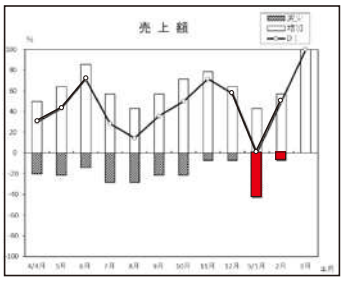


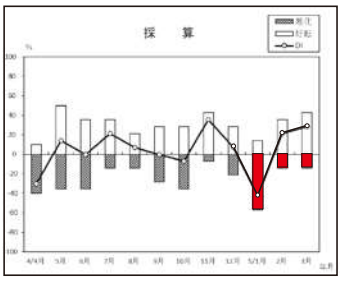


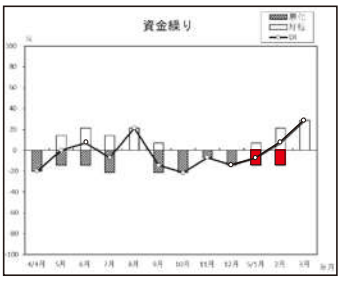


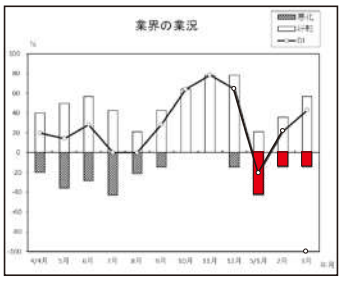
観　光　業　全国旅行支援を追い風に着実な回復基調にあるも、人手不足の課題を抱える観光業

観光業の1月～3月は、全ての項目DIが2～3月にかけて改善傾向を示した。前四半期との比較では、売上DI・採算DIともに小幅に悪化、特に業況DIが54.8ポイント減と大きく悪化したが回復動線が見られる。経営支援員からは、冬季シーズン前の物価高騰を反映した価格改定により売上は確保できたものの利益幅が薄く、今後の春・夏シーズンの集客に対して雇用確保に課題が残るなど、予断を許さない状況との報告があった。



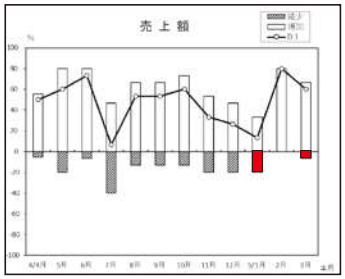


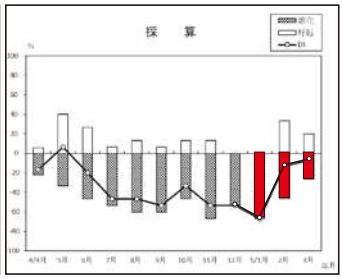


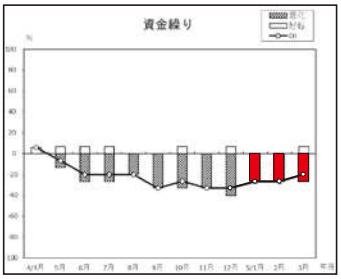


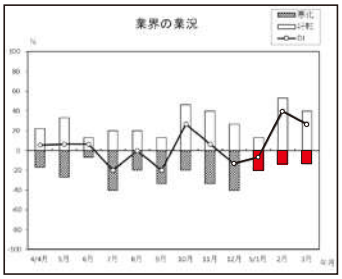
サービス業（飲食店） 経済再開で店内飲食が戻りつつも、コスト上昇が利益を圧迫するサービス業

サービス業の1月～3月は、売上・採算・業況の各項目DIで改善、資金繰りDIは横ばいを示した。前四半期との比較では、全ての項目で6～18ポイントの幅で改善を示した。経営支援員からは、2月以降の店内飲食が増加しており、需要が高まりつつある一方で、食材価格や物流費などのコスト上昇が利益を圧迫している状況にあり、深刻な人手不足による時給単価の拡大とあわせ、厳しい経営環境に変わりないとの報告があった。









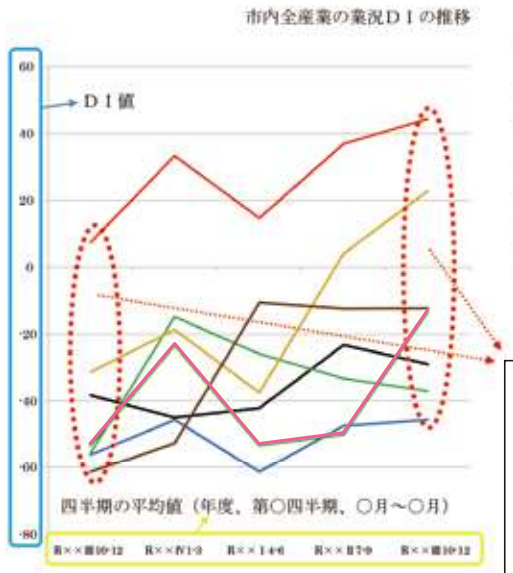
DI値とは

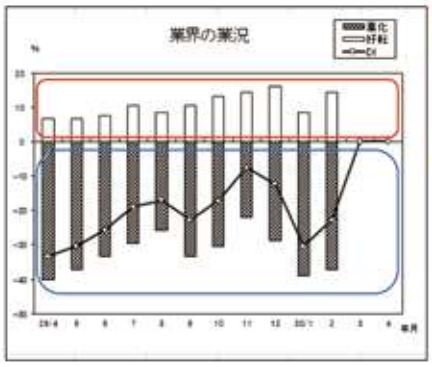
DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER（全米経済研究所）でウェスリー・C・ミッチェル（Wesley Clair Mitchell）らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加（プラス）／減少（マイナス）などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

グラフの見方





□は、項目について、「好転している」若しくは「良い」と判断した企業の推移を表しています。

□は、項目について、「悪化している」若しくは「悪い」と判断した企業の推移を表しています。

※ご注意して頂けなければならない点は、これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というモノではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値（材料）の1つに過ぎないことをご承知下さい。

１つの見方として、「R××年度の第Ⅲ四半期（10月～12月）と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動していて、上下範囲が大きくなっています。

このようなことからも、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で、格差が広がっているということが読み取れます。

京丹後市商工会　経営発達支援計画推進室
〒627-0012 京都府京丹後市峰山町杉谷836-1　TEL：0772-62-0342 FAX：0772-62-3553　担当：田中勝茂・安田稔